



発行所
〒924-8544
石川県白山市三浦町500の1
石川県立翠星高等学校内
会 所
六 星 同 窓 会
印 刷 所
能 登 印 刷 機

人間力を高める



会 長

大 藏 捷 直

同窓生の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日ごろより同窓会

の発展のためにご配慮を賜り、心より感謝申し上げます。さて、この春、卒業される皆様に

は、三年間の学習を通して多くのことを学び、体得し、かけがえのない友情を育まれたことと思います。とりわけ、翠星高校でしか体験できない大切な学びがあったことと思います。それは、専門分野における実践実習や課題研究を通して、自ら考え、判断し、実践することの重要性や共に力を合わせることの大切さを学んだことです。また、生命体と継続的に深く関わり、知らず知らずの内に、生命に対する尊敬の気持ちや他者への思いやりの心を育み、自然に対する畏敬の念を育て人間と自然の共生を図っていくことの大切さを学んだことです。それらを糧として、今後さらに努力を続けられ大きく成長していただきたいと思えます。今、社会が求めているのが「人間

力」であります。人間力は、社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力と定義されています。その構成要素は三つあり、一つは、「基礎学力」、「専門的な知識・ノウハウ」を持ち、自らそれを継続的に高めていく力。また、それらの上に応用力として構築される「論理的思考力」、「創造力」などの知的能力的要素である。二つは、「コミュニケーション」、「公共心」、「規範意識」や「他者を尊重し切磋琢磨しながらお互いを高め合う力」などの社会・対人関係力要素である。三つは、これらの要素を十分に発揮するための「意欲」、「忍耐力」や「自分らしい生き方や成功を追求する力」などの自己制御的要素である。これらを総

合的にバランス良く高めることが、人間力を高めることとなります。人間力は、一朝一夕で身に付けられるものではなく、長い年月をかけて培って行くことが大切だと思えます。そして、高めた人間力を職業人としての活動、市民としての活動、自らの文化活動に発揮していただきたいと思えます。 母校は、平成二八年に創立一四〇周年という一つの節目を迎えます。同窓会としては、学校の意向をお聞きするとともに、会員の皆様のご理解とご協力を得て、何らかの記念事業を実施し、母校の節目をお祝いしたいと考えております。 最後になりますが、同窓会の皆様のおすすめのご健勝とご活躍、そして母校の発展をお祈り申し上げます。

先を目指して



校 長

東 出 和 夫

今年度は、五月の東海支部、七月の金沢支部、十月の関西支部、十一月の関東支部とすべての支部総会に出席することができました。どの支部でも、支部長様はじめ出席された会員の皆様の温かいおもてなしを受け、心温まる一時を過ごすことができました。改めて紙面をお借りして御礼申し上げます。

それぞれの支部総会では、会員の皆様の本校に対する変わらぬ熱いお気持ちを感じ取ることができ、連綿として続いていく伝統の重さと、それを受け継いでいく責任の大きさをひしひしと感じました。揺るぎない基盤の上に立ち、時代に即応した農業教育をより発展させて行かなくてはならないという思いを強く持ちま

した。 いずれの支部でも、現在抱えている大きな問題として、出席者数(会員数)の減少が話題に上つていました。会員の高齢化が進むと同時に、総会等の行事への出席者が固定化され、若手の参加者が少ない状況があります。特に県外の支部においては、会員数が減少して会そのものの存続すら危ぶまれています。幸いなことにいずれの支部でも、当面は活動を継続していく方向で結論は得られました。抜本的な解決策がないだけに厳しい問題であります。

本校の総会においても似たような状況があります。他校と比べる必要はないのかもしれませんが、ホテルの宴会場では入りきれないほどの人数が集まる総会や新年会を行って

いる学校を見ると、本校が伝統校であるだけに寂しい気がします。これまでも総会等の出席者増加に向けた方策を尽くしてこられたはずですが、なかなか有効なものになり得ていません。出席を促すだけでなく、ある年齢になったら出席せざるを得ないような仕掛けを作っていくことも大切なのではないのでしょうか。 本校は再来年(平成二八年)に創立一四〇周年を迎えます。詳細は未定ですが、同窓会を中心として記念事業が計画されています。学校としても、準備段階から積極的に関わっていく覚悟です。そうした事業をきちんとした形で成功させるのが重要であることは、申すまでもありません。しかしそれだけではありません。できるだけ多くの方に、様々な

形に関わっていただくことにより同窓会の活動にご理解をいただき、その後の活動に参加する契機とする。これも周年行事を行う重要な意味だと考えます。そのためには、あえて非効率的な手段をとることもあって、関わる人数を増やしていくことも検討されて良いのかもしれない。 我が国の農業が問題を抱え揺れ動くのと同時に、農業教育も動いています。本校でも、これからの時代に対応できるような農業教育を目指して、従来のコース内容の見直しを進めています。新しい時代を切り拓いていくためには、確固とした足場となる伝統が必要です。今後ともご支援よろしくお願い申し上げます。

暑い日も寒い日も

坂井 靖男さん

平成十一年度卒 生物生産科

私の家は祖父の代から続く蓮根
專業農家です。金沢の蓮根の歴史
は古く、約三百年前に加賀藩五代
藩主である前田綱紀が米の出来が
悪い田に植えたのが始まりと伝え
られています。当時は観賞用や薬
として使われていましたが、明治
二十年頃から食用として小坂れん
こんの名で広がり、現在では加賀
れんこんとして全国的にも知名度
が上がってきました。

そんな加賀れんこんですが、栽
培自体は野菜の中でも簡単な方
で、四月～九月頃までの成長期に
は水管理と追肥を行う程度で、十
月以降は土中での保存状態になり
収穫を行うだけなのです。蓮根の
収穫には二種類あり、良くテレビ
等で紹介されている水圧で取るも
のと、田んぼの水を抜いて鍬で掘
るものに分けられます。水圧での
収穫は鍬に比べて楽で、一日の収
穫量も多いです。しかし、水圧で
キズを付けやすく泥を流してしま
うので表面が乾き鮮度が落ちやす



くなりま
す。ポン
プの燃料
費も馬鹿
になりま
せん。逆
に鍬掘り
は労力的
に大変な
ので収穫
量も少なく
なります。父も鍬掘り
は一人前になるのに十年かかると
良く話していました。そんな大変
な鍬掘りですが、昔からの伝統的
な手法であり一本一本丁寧に、ま
るで我が子のような感じで掘り出
す姿が中学生の私には誰でも簡単
には出来ない所がカッコイイ!!僕
も将来は、とーちゃんみたいに美
味しい蓮根を作ってみたい。その
想いを胸に私の農業人生が始まり
ました。県立松任農業高校→東京
農業大学短期大学部卒。在学中は
色々な事にチャレンジし、全国の
農家へ実習に行ったりして技を盗
んできました。基本的な知識を学
び、若さとやる気に溢れる二十
歳。そんな私に待ち受けていたの
は…体力、気力、忍耐力との格闘
の日々でした。収穫が始まる八月
～三月には冷たい雨や吹雪き、積

雪の中での収穫。これは何かの修
業か?と思う程の過酷さ。就農か
ら三年目。夏バテ腰痛、霜焼け。
何回も辞めたいと思いました。一
人前には十年かかる…とーちゃん
の言葉通りや。わしゃ蓮根掘りを
舐めとったわ。でも自分で選んだ
道。負けんぞ!!就農から五年間は
とにかく必死に耐えて掘る日々。
掘り方も誰も教えてくれません。
父は体で覚えるもんやから、姿を
見て盗むものだ…。就農から七
年。体も蓮根掘り仕様に鍛えら
れ、たくさん掘れるようにもな
り、肥料も任される様になりました。
今では昔からやりたかった、
地力改善や有機栽培、減農薬に力
を入れて、田んぼにはミミズやド
ジョウ、ザリガニ、カメなどたく
さんいる昔ながらの田んぼが戻っ
てきました。いつもお世話になっ
ているお客様や料亭さんも「前よ
り格段に味が良くなってる。これ
からも宜しく」と嬉しいお言葉も
頂きました。辛くて大変な作業は
かりですが、お客様の笑顔や支え
てくれる家族の為、これからも
頑張つて
いきたい
と思いま
す。



五年間の陸上人生

生物科学コース二年 上原 凌

中学一年生のころから陸上を
やってきました。入部しようと
思った理由は特になく、ただ走る
のが得意だったからだと思います。
初めての部活動ということもあ
り、何も考えずに真剣にやってま
した。運よく最初のころからそれ
なりのタイムで走れたので三年生
と県体会でリレーを走りました。
僕がミスをしてしまつてすごく申
し訳ない気持ちでいっぱいだった
のを今でも覚えています。多分、今
でいられるのは、そういう経験が
あつたからだと思います。

高校で陸上をしているのは推薦
があつたからです。入部してみ
ると、中学の時知りあつた先輩が
いて、すごくてのしい部活だと思
いました。正直、練習に関しては
あまり意欲はなかつたけれど、仲
間たちがいたのでしつかりできま
した。
昨年度の夏の練習は、暑さにや
られてダメなところもあつたと思
うけれど、みんな支えあつて成
長できてたと思います。その支え
があつてその年の新人戦は決勝ま
であと一步のところまでいけまし
た。冬の練習もいつもとは違う環
境である学校でやり、かなりキツ
イ練習もあつたけれど、みんな
声などをかけあつてのりきまし

た。
いろんな
人の支えが
あつて今年
度の総体で
は、二〇〇
メートル走
で四位にな
れました。
北信越に行
けはしたけれど、ダメダメでし
た。北信越からはレベルが違うな
と思ひました。
その夏から部活の雰囲気を変え
るための声出し頑張ろうって方針
になり、僕は嫌になり逃げだして
しまいました。でもそういうこと
から逃げちゃ今まで支えてくれた
人にも申し訳ないなど思ひ戻りま
した。
あと半年で陸上人生は終わると
思うので、嫌なことから逃げ出さ
ず、部員達と総体に向けて日々頑
張つていきたいと思ひます。
目指せ全員入賞!



想像のつかなかつた道へ

生物科学コース三年 曾山沙弥佳

高校入学前の自分は、「農業」
について知らず、あまり興味があ
りませんでした。
しかし、入学して一年次の授業
で初めてメロンと源助大根、耐病
総太りの二種類のダイコンを栽培
しました。その際、水やりや除草

草

などの作業で大変さを感じると共に、また、おもしろさや植物の不思議さも感じる事ができました。

そして、二年次からは、よりたくさんさんの植物を栽培したいと思い、生物科学コースを選択しました。コースでは、栽培を通して、一年次の時よりも専門的に植物の

個々の特徴や栽培方法を学び、実際に農場に出て、定植や収穫などのさまざまな作業をしたりピュアマートでの販売実習も行いました。その中でも私は特に、野菜の科目で、同じ野菜なのに産地や栽培方法の違いで生育に違いが生じることに大変興味を持ち、この頃から少しずつですが、大学に進学してさまざまな地域の野菜の違いなどを学びたいと思うようになりました。また、二年次になったと同時に、農業クラブに入り、研修会やクラブ員代表者会議に参加し、他校の生徒と意見交換を行ったり、個人では県連大会で見発表やプロジェクト発表、農業鑑定競技等に参加し、授業では学べない事も学ぶことができました。

最初は、「農業」に興味がないまま入学した私でしたが、入学して普通高校では経験することのない授業や実習で日に日に、農業に染まっていく自分がいました。入学前の自分からは全く想像のつかない自分で、ビックリしました。そして、三年間がとても短く感じました。

私は卒業後、石川県立大学に進学します。大学では、生産科学科で、高校で学んだことを生かし、農業に對しての興味と研究心を持ち、地域野菜についてより深く学び研究したいと思っています。

自分の将来

環境土木コース三年 嶋田 陸人

中学生の頃、私は将来建物を設計する仕事がしたいと思っていました。そこでこの事を先生に話したところ翠星高校では設計の勉強ができる聞き、私はとても興味がわき翠星高校進学を決意しました。

高校二年次になり、コースはもちろん環境土木コースを選択しました。このコースは設計だけでなく、測量や施行を学ぶことができます。また環境土木コースは外の実習が多く、天気の良い中での実習は気持ち良く、楽しいものでした。実習や専門授業を受けるにつれ入学時は設計を学んで設計をする仕事かと思っていたのが三年次には今まで学んだ専門教科をもっと勉強するために大学に行き、将来的には地元をより住みやすく、高齢者が安心、安全な県にしたいと思うようになりました。部活動は卓球部に所属しまし

た。卓球は高校に入るまでやったことがなく中学校でやっていたテニスとは同じ球技でも全く違うものでした。一時期、全く上達しない自分に嫌気がさしたこともありましたが、そんな私を支えてくれたのは部員の皆です。また、私の個人的な練習に部活が終わった後もつきあってくれました。そのおかげで他校に練習試合にいつても少し勝てるようになりました。三年間この部活を続けて友達やたくさんの人との関係を得ることができてよかったです。

私は、卒業後は石川県立大学に進学して、将来の夢に近づけるように勉学に励み頑張りたいです。

5年ぶりの全国大会出場へ

食品科学コース教諭 安川 三和

今年、食品科学研究会はプロジェクト発表部門で加賀丸いもをテーマとし、全国大会への出場を果たした。本校のプロジェクト発表の全国大会への出場は、平成二一年度以降五年ぶりである。残念ながら全国大会で賞をもらうことはできなかったが、昨年は北信越ブロック大会で敗退し、私自身悔しい思いをしたのでとてもうれしかった。

今年度、北信越ブロック大会を勝ちぬけたのは、チーム作りであると思っている。食品科学研究会

を引き継いだばかりの昨年は、今までと同程度の製品を製造する技術面のごとで精いっぱい、チーム作りを十分行うことができなかった。そのため、今年度はチーム作りにより主眼を置いた。県連大会にプロジェクトを二チーム出場させ、全員をプロジェクトの選手とした。一チームのみ北信越大会に駒を進めたが、全員が選手を経験したため、負けたチームの選手も北信越へ進むチームを自然と応援し、選手であるなしに関わらず、食品科学研究会というチームとして一丸となって全国大会へ出場できた。

また、良く生徒に「どうしたら良いか自分で考えなさい」と言った。商品の保管忘れや、包装ミスなどのトラブルを次回どうしたら起こさないか、もっと効率的な作業をするにはどうしたら良いか。答えはすぐに生徒に提示せず、常に考えさせた。わざと失敗を見通して、失敗から学んでもらったこともあった。結果、生徒は、自分たちが研究会活動を動かしているという意識をもち、主体的に取り組んでくれた。これらのことを通し、チームがひとつとなり、全国大会へ出場できたと思う。来年度は、全国大会で賞をもらえるよう、生徒とともに頑張りたい。

現在食品科学研究会では、白山市、野々市市、能美市と連携し、地域農家の六次産業化支援を行っている。JAやイベントでの販

売、農家訪問により、地域の方々へ地元素材の良さをPRしたり、翠星高校生の元気さや地域を元気にしたいという意気込みを知っていただくことができた。

多くの方々の協力のもと、加賀丸いも農家やゆず農家、ヤーコン農家、行政、JA等の団体と密な連携が取れ、成果が形になりつつある。特に白山市のトマト農家の今本さんと連携している規格外トマトの活用については、トマトペーストをレトルト化し、試験販売まで完了した。今後は、白山市のトマト農家さん全ての規格外トマトを、食品科学コースで引き取り、トマトケチャップの実習に活用できないか検討している。このように、研究会での活動の成果をコースへと取り入れることにより、六次産業化支援だけでなく、地域の六次産業化に直接貢献し、地元になくはならない翠星高校で在り続けたいと思う。



支部だより

関東支部

昭和三十六年卒

東 建路

関東支部第十八回総会は、十一月八日(土曜日)正午から、四ツ谷駅前主婦会館に於いて母校より東出校長先生のご出席の下、盛大に開催いたしました。

日向理事の司会により村松支部長のご挨拶と校長先生の母校の近況報告を賜った後、式次第に基づき東幹事より事業報告・決算報告と来期の事業計画・予算案の説明を行った後、濱野監事より会計監査報告を行いそれぞれ満場一致で議案が承認可決されました。

今期の活動は会議活動で、総会、役員会、三役会を。内部活動は「気軽に一杯の会」、「歩く会」は、年二回(春は天皇陛下傘寿記念皇居乾通りの観桜会、秋はJAL工場見学)。外部活動は、いしかわ県人祭、百万石の集いにも多数の会員とご家族が参加され会員相互の親睦を図りました。

引続き小林副支部長の司会進行で、山本願

問の乾杯により懇親会の宴に。本日出席の最古参である下出忍会員(昭和十七年松任農学校



卒業)が思い出話として卒業後兵役で満州出征、抑留から無事引揚までのご苦勞話をして戴きました。

宴佳境の中、加藤理事の発声で母校のご発展と会員各位のご健康を誓い解散となりました。

会員に帰路時、恒例であるふるさとの味、村山円八の「あんころ餅」を手土産で持帰り戴きました。

関西支部

昭和三十三年度卒

松永 潔

六星同窓会関西支部 平成二六年度総会を去る、平成二六年十月十九日(日)に大阪南船場「日本料理和楽」に於いて、母校より東出和夫学校長、寺田修一教諭のご参加をいただき盛大に開催いたしました。

式次第により、徳井外志雄副支部長の司会で宮岸岩夫支部長の開催のご挨拶と東出和夫学校長よりの祝辞と、寺田修一教諭から母校の近況報告を頂戴いたしました。続いて、事務局から提出されたご議案について質疑応答、全員による審議の結果、満場一致で承認可決されました。

議案の中では長期にわたり支部長として大変お世話になりました宮岸岩夫支部長から健康上の理由で支部長を委譲してほしいとの要望があり、役員会での審議の上、推薦されました、新支部長に北本幸雄(昭和二十九年卒 普通科)、補助に事務局として松永潔(昭和

三十二年卒 農芸化)が推薦され総会で満場一致で承認可決され総会を終了いたしました。

引き続き山岸良子副支部長

の乾杯音頭で懇親会の宴に入り、

母校の情報、会員各位の情報交換等、楽しく、盛況活気ある雰囲気

の懇親会となりました。

徳井外志雄副支部長から母校の発展と会員各位のご健康を誓い散会となりました。

昨年度から議題になっている、会員の高齢化による健康上の問題と新規加入者もなく減少傾向が心配されていますが会員相互のより一層の親睦を図り支部発展に寄与して行きたいと思っております。

東海支部

昭和三十六年度卒

山本 満男

平成二十七年は東海地方も寒い日々の中で、新春を迎えました。

昨年は今までに経験したことのない自然災害が全国各地にありました。

今年(昭和三十一年)は、名古屋市中区辻町に今賑わい見せる「羊神社」



があります。今年も五月二十日(土)ホテルサンルートプラザ名古屋にて東海支部六星同窓会を開催致します。沢山の方の参加を世話人一同お待ちしております。宜しくお願ひ申し上げます。

金沢支部

昭和四十八年卒農業科

松平 裕喜

平成二六年度の総会は、母校より東出和夫学校長、寺田修一先生のご臨席を賜り、出席者三七名で七月五日(土)金沢都ホテルに於いて開催されました。

開会にあたり大藏捷直会長兼支部長、東出和夫学校長より挨拶を頂き、総会議案については満場一致で可決されました。

総会後の講演には昭和三八年卒の米林利栄氏を迎え「農業を生業として半世紀」との演題で講演も

事務局だより

〈本部〉

会計監査

六月三日(火)本校校長室

理事会・総会

六月十四日(土)グランドホテル松任

〈支部総会〉

〔金沢支部総会〕

七月五日(土)金沢都ホテル

東出校長 寺田教諭出席

賜りました。米林氏は隣りに営農拠点を求め、土づくりを重点に加賀野菜の栽培に力を注ぎ優れた実績を上げておられます。強い信念と信念を持ち農業を続けて来られた姿に心打たれる素晴らしい講演でありました。

後の懇親会に於いては六星同窓会の更なる結束と益々の発展を願ひ散会となりました。

追伸：総会会場の受付で母校生徒が製造した、ジャムやクッキーを販売しており人気も上々で毎年完売となります。



〔関西支部総会〕

十月十九日(日)日本料理和楽

東出校長出席 寺田教諭出席

〔東海支部総会〕

五月三十日(土)ホテルサンルート

プラザ名古屋

大藏同窓会会長、東出校長、長瀬実習教諭出席

〔関東支部総会〕

十一月八日(土)主婦会館プラザエフ

東出校長出席